

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

定刻となりましたので、令和6年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開会いたします。本日は、皆様お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めます、患者支援センターの益原でございます。どうぞよろしく願いいたします。

委員10名に対し、本日は10名の委員に出席いただいております、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、開会にあたり中沢病院事業管理者よりご挨拶申し上げます。

●事務局（中沢病院事業管理者）

本日は、年度末の大変お忙しいところ、今年度4回目の地域医療支援委員会にご出席、誠にありがとうございます。

日頃より皆様方には市立病院の運営にご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

早いもので、今年度も残すところあと2週間あまりという形になりました。

年末年始はインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の患者さんが多数受診され、病床もひっ迫していました。現在も病床はひっ迫気味で、市民の皆様、医師会の皆様方にはなるべくご迷惑のわからないよう退院調整を進めているところでございます。

また、昨年度新規に導入いたしました手術支援ロボットも順調に件数を伸ばし、今年度に入り呼吸器外科も加わり、泌尿器科、外科と合わせて診療3科で月平均大体10.4件の稼働状況ということで、昨年度の6.2件を大きく上回っております。

また、脊椎センターや人工関節センターにおきましても、おかげ様で整形外科全体の紹介患者さんも20パーセント以上増加して、手術件数も月平均93件と昨年を大きく上回っているところでございます。

さらに、AIを搭載した内視鏡画像診断も開始し、大腸内視鏡検査におきまして診断の質も向上させていただいております。

このように、今年度もおかげさまで順調に推移しているところでございます。

本日は、12月までの患者支援センターとがん相談支援センターの実績とともに、救急搬送件数の推移など、地域医療支援病院としての業務遂行状況についてご報告し、ご議論をいただくこととしております。

どうぞ忌憚のないご意見を賜ればと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

ありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。これより先の議事進行につきましては高山委員長にお願いいたします。

高山委員長、よろしく願いいたします。

○高山委員

茅ヶ崎医師会の高山です。円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろ

しくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題 1 の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

●事務局（平山担当長）

令和 6 年 4 月から 12 月の患者支援センター業務実績について説明させていただきます。患者支援センターの平山です。よろしくお願いいたします。

資料 1-1 をご覧ください。令和 6 年度紹介率・逆紹介率の表です。4 月から 12 月の紹介率の平均は 72.6%、逆紹介率の平均は 101.9%です。令和 5 年度と比較して紹介率は 2.7 ポイント増加、逆紹介率は 3.0 ポイント増加しています。下段にあります、地域医療支援病院の承認要件②の紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上を満たしています。

続いて、資料 1-2 をご覧ください。令和 6 年 12 月と 4 月から 12 月累計の診療科別紹介率・逆紹介率の表です。右にある累計の欄をご覧ください。紹介率は、放射線診断科 100%、眼科 95.3%、リウマチ膠原病内科 91.8%、循環器内科 90.6%の順になっており、逆紹介率は、呼吸器外科、代謝内分泌科、腎臓内科、循環器内科の順になっています。

資料 1-3 をご覧ください。令和 6 年 4 月から 12 月の紹介元・逆紹介先医療機関一覧です。紹介元医療機関名と紹介患者数、そのうち予約検査数、前年度実績、前年度比を表しています。

紹介元医療機関はやまもと内科クリニック、藤川整形外科、大木医院の順に多くなっており、逆紹介先医療機関はやまもと内科クリニック、大木医院、水沼医院、藤川整形外科の順に多くなっています。

前年度と比較して、紹介患者数が最も増加したのは、新規開業の 10 番キャップスクリニックの 206 人増で、続いて 8 番の茅ヶ崎クリニックの 53 人増、27 番のはしもと脳神経外科クリニックの 52 人増となっています。

資料 1-4 をご覧ください。令和 6 年 4 月から 12 月の登録医救急診察専用回線・循環器ホットラインの紹介についてです。対応件数は 487 件で前年度より 96 件増加しました。そのうち入院につながったケースは 212 件で、前年度と比較すると 34 件増加しており、入院割合は 44%になりました。小児科への紹介が全体の半分を占めており、入院割合は 50%となりました。入電時間は午前 11 時台が最も多く、午後は 15 時から 17 時にかけて多くなっています。

資料 1-5 をご覧ください。令和 6 年度の予約検査の件数表です。CT・MRI については検査需要が高く推移しています。特に CT は 707 件で 79 件増加、前年度比 112.6%となっています。エコー検査では、甲状腺エコーが前年度比 115.6%となっております。

資料 1-6 をご覧ください。令和 6 年度、月別の相談延べ件数表です。相談対応は、看護師と社会福祉士が行っています。4 月から 12 月の相談対応延べ件数は、新規が 1,812 件、継続 5,362 件の合計 7,174 件で、前年度比 92.3%で減少しております。令和 6 年 1 月に導入した退院支援システム Mix Jam Cloud を活用した転院調整は 453 件であり、院内外の連絡調整件数が顕著に減少しております。相談内容の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く 2,563 件、次に転院に向けての退院相談が 2,212 件、続いて社会福祉制度の相談が 1,162 件となっています。対応方法は電話での相談対応が 2,983 件と最も多いものの、前年度と比較すると 854 件減少しています。退院支援システム活用による影響と考えられ、その分、対面での相談件数は 2,589 件と前年度と比較すると 160 件増加しています。院外関係者とのカンファレンスは令和 5 年度より 9 件増加の 99

件となっています。

資料1-7をご覧ください。令和6年4月から12月までの退院支援の実績表です。総退院患者数は8,231名、そのうち退院支援スクリーニングで該当ありの患者が5,489名、入退院支援加算1を算定した患者数は5,051名、入院時支援加算算定患者は2,303名、その他、退院前後訪問、介護支援連携指導、退院時共同指導2実施数、多機関共同指導数のデータです。いずれも前年度を上回る退院支援状況となっています。

資料1-8をご覧ください。令和6年4月から12月までの小児周産期医療に関するデータです。分娩件数は310件、母体搬送数は30件、新生児搬送件数は44件、母体搬送は前年度より10件減少しています。訪問型産後ケアは13件、今年度から開始した日帰り産後ケアは12件の利用がありました。また、メディカルショートステイは10件対応しています。

資料1-9をご覧ください。令和6年度地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。12月までに17回開催しました。研修会や症例検討会、カンファレンス等を通し、顔の見える関係性と連携強化を図れるように、継続的に進めていきます。

○高山委員長

説明が終わりました。議題1について、委員の皆さんからのご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高山委員

特に質問等ないので、議題1については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

ご意見がないのでこれで終了とさせていただきたいと思います。続いて議題2のがん相談支援センターの事業実績について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい。がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願いいたします。

それでは、がん相談支援センター令和6年度4月～12月の業務実績についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。1の月別がん相談件数は、9ヶ月で延べ1,519件あり前年度より595件増加しました。同日に来られた方の相談に対して、例えば外来前や外来中、外来後など対応毎にカウントしていきますので、関わっていく回数に伴い多くなっています。また、高齢者や難聴、聾啞の方と継続で関わっているケースもある為、件数も多くなっています。

2の受診状況別がん相談件数に関しては自施設入院が205件、自施設通院が1,259件でした。

3の受診状況別相談方法は、対面相談が1,159件・電話相談が360件です。他施設からの相談に関しては、相談する場所がなく、手術や抗がん剤などの治療方針を医師から提示されたが、説明内容がよく分からないと来院され、医師からの説明用紙を一緒に見ながら分かる範囲での情報とお伝えしながら、次回受診日に何を医師に確認すればいいかを一緒に考えるなどを行ったケースもあります。この方に関しては、その都度通院している病院に相談できる場所がないのかを確認していますが、こちらの方が相談しやすいと繰り返しご相談に来られています。

4の相談内容の内訳については、症状・副作用・後遺症などの相談が969件と一番多くなっています。その中でアピアランスケアに関して25件ありました。ご相談の際に最初からウィッグなどの

話を聞きたいと訪ねて来られる方の件数です。ウィッグや脱毛ケアなどのご案内をしながら、話の中で相談したいことが新たに出てくる方もおり、例えば家族との関係や医療費の事など様々なご相談もお聞きしています。また実際に脱毛が開始したときに不安になり尋ねて来られる方もおり継続でフォローしています。その他に不安・精神的苦痛が 919 件、グリーフケアが 14 件でした。グリーフケアに関しては患者さんがお亡くなりになったとご家族がご挨拶に来られるケースがあり、その際に思いをお聞きしています。また、がん治療について 614 件、在宅医療 345 件、ホスピス・緩和ケア 139 件となっていました。一人で複数の相談内容がある為、相談件数と一致しません。

5 のがんの状況については初発が 1,075 件、再発・転移 416 件でした。

6 の治療状況においては治療前が 322 件、治療中 623 件、治療後 82 件、緩和ケアのみ 260 件でした。すべての項目の中で不明、その他に関してですが、がん相談支援センターでは匿名の方などもお受けしています。そのため、相談の際に詳細を話したくないという方もおられます。分かる範囲でのご相談とお伝えし、情報提供などを行っています。

7 のがん相談支援センターへの専門家派遣依頼件数についてです。がん患者の様々な悩みに対応するため、神奈川県がん・疾病対策課が行っている事業です。こちらに関しては、がん相談で相談を受けて神奈川県がん・疾病対策課に連絡し、派遣を要請します。調整するまでに 1 から 2 週間程度期間を要しています。あらかじめ患者さんには少し時間がかかることをお伝えし、その上で調整を図っています。今年度から追加の事業でキャリアコンサルタント、ファイナンシャルプランナーの派遣事業も開始となりました。先日、キャリアコンサルタントに相談したいという方がいました。がんになり、一度しかない人生と感じ、元々やっていたい仕事に挑戦したい、しかし、履歴書にがんで治療中ということに記載していいのかどうなのかと悩まれ、キャリアコンサルタントに相談したいと希望されました。相談終了後に前向きに進んでいいんだと思った、と話され、とてもいい表情で帰っていかれました。

今後も引き続きがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえる様に周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○高山委員長

はい、説明が終わりました。議題 2 について、委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○勝山委員

はい、よろしいでしょうか。

○高山委員長

どうぞ。

○勝山委員

横浜市大の勝山です。たくさんのがんの相談の件数を伺いまして、去年よりも今年の方が非常に多くなっている。

恐らく、相談センターの相談機能と言いますか信頼と言いますか、相談の窓口に行くと、こういったことが相談できるのではないかという期待も非常に大きいのではないかと、そんな風に思いなが

ら伺いました。

そこで先ほど、がんの相談支援センターへの専門家派遣のお話を聞きながら、キャリアコンサルタントの派遣を今年度したという実績、事例をお話いただきまして、非常に貴重な事例だなという風に思いました。

この様な相談が入っているということ、現場のナースや他の医療従事者に伝えるような研修の機会等があるのかどうか、伺えたらと思います。

大変重要な、そしてまた今、時代も変わって様々な情報が得られる患者さんたちが、どの辺りに不安や思いを持ってらっしゃるのかということ、を共有できる機会があると、もしかすると相談の前に何か解決できたり、またドクターへの相談も説明されてる時に直接伺えたりというような形でできるのかなと思いましたが、こういったがん相談支援センターの実績、事例について共有する機会があるかどうか、教えていただけたらと思います。

○高山委員長

はい、事務局お願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい。ありがとうございます。神奈川県の実業に関しては、例えば新採用職員には、書面になってしまっているのですが、緩和ケアの研修や、新採用職員研修のオリエンテーションなので紙面でお伝えをしています。

研修という形で機会を持ってはいないですが、そういう形で案内をしています。

○勝山委員

分かりました。貴重な事例と言いますか、お話しかなという風に思いますので、緩和ケアの研修会や、それからまた院内の研修でこの様なことが共有できる機会があると、もっともっと良いかなと思いましたが、他の人たちに伝え、その方たちが相談を受けたときに対応しやすくなるのではないかなと思いましたが、ご検討いただければとおもいました。ありがとうございます。

○高山委員長

どうも貴重なご意見ありがとうございます。

その他、何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

○大木委員

よろしいでしょうか。

○高山委員長

はい、お願いします。

○大木委員

私は、がんの専門家でもないのですが、がん患者さんの増加、高齢者のがん患者の増加などを考えてみますと、本当に自分のところのかかりつけ患者さんが、がんになるケースが多くなっているな

と思っているのですが、これだけ相談件数が増加しましたよね。

それは、コロナ禍が明けたということで相談件数が増えているという見方もあれば、高齢化が進んできて、がん患者さん、特に末期ケアですね、緩和ケアが多くなるという風になり、このまま増加すると今の定員、相談者で足りるのかどうかというようなところを、どのように市立病院としては見込んでいるのか、お話いただければありがたいです。

○高山委員長

はい。では、事務局説明をお願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい、ありがとうございます。私どものがん相談員だけで、もし人数が足りずに対応しきれない場合は、患者支援センターの中に相談員が他にもおりますので、その人たちと相談しながら対応しています。当日に突然相談に来られて他の方と相談が重なるケースなどもありますが、そういう時は患者支援センターの中で他の相談員にお願いして、いったん引き受けてもらう場合もあります。

○高山委員長

どうも説明ありがとうございました。

大木先生、そういうことで、まだ多少なりとも市立病院の方は余裕があるということでご理解いただいたと思います。

その他、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

○高山委員長

ではないようですので、議題2については終了させていただきたいと思います。

続いて議題3 救急搬送の状況について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題3 救急搬送状況について、ご説明いたします。

説明は医事課長の高瀬が説明いたします。資料については、資料3-1と資料3-2でございます。それでは資料3-1 上段の表をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。表の右側、年度累計（当月まで）の欄をご覧ください。こちらは、今年度の4月から12月までの合計と前年度の4月から12月までの合計および、それぞれの割合について表したものでございます。今年度の4月から12月までの全体搬送件数は12,571件と前年度の12,963件から392件減少しておりますが、前回報告の減少数が590件でしたので、198件ほど改善しているところでございます。

当院への搬送件数につきましては、3,577件と前年度の3,595件から18件減少しているということですが、こちらも前回報告時は215件の減少でございましたので、197件の改善が見られているところでございます。

また、当院への搬送割合につきましては、今年度は28.5%と前年度27.7%から0.8ポイント増加しており、こちらも前回報告時が0.5ポイントの減でしたので、こちらも改善が見られているところでございます。この改善傾向につきましては、12月の搬送件数が増加していること、と言うの

は、12月の欄で当院の搬送件数551というものがそれ以前に比べて多くなっているところが読み取れるところではございますが、その原因につきましては、12月18日に茅ヶ崎市保健所からインフルエンザの流行発生警報が発表されたところもありまして、当院の状況も11月のインフルエンザの検査確定数、すみません、口頭での説明で恐縮ですが、インフルエンザの検査確定数につきましては、総合内科が11月は13件、小児科が17件でしたところ、12月になりまして総合内科が525件、小児科が100件というように、激増しているということがございまして、このインフルエンザの流行が大きく影響したと分析しているところでございます。

他院の状況につきましては湘南藤沢徳洲会病院への搬送割合が今年度は22.5%と前年度25.0%から2.5ポイント減少しており、その他は茅ヶ崎徳洲会病院が今年度12.6%と、前年度の11.8%から0.8ポイント搬送される割合が増えているところでございます。

次に下段の表をご覧ください。こちらは診療科別に救急車の受入件数とそこから入院した患者数を表した者でございます。下段の表、一番下の入院率をご覧ください。今年度は各月とも入院率が35%を超えておりまして、10月と11月に関しては40%近い入院率となっているところでございます。右側の年度累計（当月まで）を見ましても、今年度は39.0%と前年度の36.4%から2.6ポイント増加しているところでございます。

続きまして資料3-2をご覧ください。こちらは、今年度4月から12月にかけて、茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数と割合を地区別に分類したものでございます。

資料一番下の合計の欄をご覧ください。一番右の28.5%というのは、資料3-1に示した茅ヶ崎市消防から市立病院に搬送された割合でございます。地区別では、茅ヶ崎地区、鶴嶺地区、松林地区からの搬送が多くなっている現状であります。小出地区や寒川地区からの搬送割合が少なく、当院は茅ヶ崎地区にあります。一番下のところを見ていただくと搬送割合としては松林地区が一番多く33.8%、次いで鶴嶺地区が27.5%、その次に茅ヶ崎地区からが24.1%という順番になっているところでございます。

説明は以上でございます。

○高山委員長

はい、説明ありがとうございました。議題3について、委員の皆様からのご意見、ご質問等はございますでしょうか。

どうぞ、大木先生。

○大木委員

データに出ているとおり、12月が非常に搬送件数が多く、入院率も40パーセント近いということで、これはインフルエンザウイルスの大流行ということが理由だと思います。

私のところも一定数のインフルエンザやコロナは出たのですが、やはり高齢化率が高まっているので、外来患者さん、または在宅診療している患者さんの急変率、または入院を要するような方がやはりこの時期に重なっていました。

12月や1月で、この時期に私もやはり1日に2、3人ほど救急依頼をかけて入院先を探したことが12月下旬、1月に多く、実際に市立病院が満床だということで、他の病院に依頼をかけても、湘南藤沢徳洲会病院や平塚市民病院、藤沢市民病院などになるのですが、そこでももう手一杯だというようなことでした。1月中旬以降はそれほど緊急入院がなかったのですが、本当にギリギリの

状態でした。

これは本当にインフルエンザの流行と冬場が重なったことだとは思いますが、こういった場合の調整を、コロナが明けて、コロナに対して保健所のコントロールがない中で、私が思うには、やはり救急で受けてくれた例えば内科の先生が、一応依頼を受けるのですが、ただ病床がないと自分たちが転院先を探して見つけると。そして、さらに救急車も搬送されてくるとなると、非常に重労働なんですね。

ですので、何かサポートシステムといいますか、病床をコントロールするというようなことをやっていただけないのかなと。と言いますのは、この間、パンデミックが起こった場合は茅ヶ崎市内の病院間の連携というのは講義で知ったのですが、それはうまくいっていて、パンデミックになった時はそうなるのですが、パンデミックでない場合、今回の12月の時などのように、やはり高齢者も感染症だけではなく、疾患が増悪するという時期に、なんとか少しでも病床のコントロール、または救急対応する先生方の負担が取れるようなシステムができないのかなという風に思うのですが、これは市立病院単独だけでは難しいと思いますが、そういう取り組みが必要だったのではないかと私はすごく感じてるのですが、そういう展望というか何か兆しみたいなのはあるのでしょうか。

○高山委員長

大木先生のご発言は非常に重いもので、確かに大変難しい問題だと思います。

いくらでも病床があれば、それは受け入れられることはできると思いますが、限りある病床の中でいかに有効利用していくかということになるかと思えます。ただ、大木先生がおっしゃるとおり、市立病院単独では困難ですし、あるいは他の2病院、3病院と連携しても、恐らく同じ状況だと他の病院もいっぱいの状況ではあるとは思いますが、大変難しい問題ですけど、事務局の方、何かご意見等ございますでしょうか。

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

はい、益原からお答え申し上げます。

病床が少なくなってまいりますと、まず朝のうちに今日の空きベッド病床数について、このぐらい空いています、という内容を各科の科部長先生に私からメールを入れています。有効にベッドを使っただけように各科で共有していただくということにしています。

それから、近隣の病院にも患者支援センターからお電話入れさせていただいて、今日の空きベッドがどれくらいありますか、ですとか、どのくらいお願いできそうですかという情報を都度、日々です、こちらでも把握して診療にあたっていたような状況でした。

あとは、神奈川県で、広域になります、空床を探してくれるという事業が県でありまして、そこを利用させていただいたこともあります。先生方に少しご迷惑をおかけしたことあったと思いますが、当院としても多少のオーバーベッドは看護部の方で頑張らせていただいて、入院患者さんを取ったという状況ですので、またこれからも、こういう状況はいつ起きるかわかりませんので、当院としても工夫を重ねて、先生方にご迷惑かからないようにしたいと考えております。

どうもありがとうございます。

○高山委員長

益原先生、ありがとうございました。大変難しい問題ですけど、またぜひ市立病院としても頑張っ

ていただければ大変ありがたいかと思ひます。
その他、何かご質問等ございませんでしうか。

○高山委員長

他に質問がないようなので、議題3についてはこれで終了とさせていただきます。と思ひます。
で、続きまして、議題4、その他についてです。
事務局から、次年度の開催日程等についてのご説明をお願いいたします。

●事務局（高橋医事課主査）

はい。事務局より、次年度、令和7年度の茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会の開催予定をご報告させていただきます。

予定としましては、7月4日金曜日、第2回目が10月8日水曜日、3回目が12月18日木曜日、4回目が3月13日金曜日、いずれも時間は19時からオンラインにて開催させていただきますと思ひております。

もう一度、ご報告させていただきます。日程につきまして、第1回目が7月4日金曜日、2回目が10月8日水曜日、3回目が12月18日木曜日、4回目が令和8年3月13日金曜日を予定しておりますので、皆様、よろしくお願ひいたします。

説明は以上でございます。

○高山委員長

その他、委員の皆様からのご意見、ご発言等ございませんでしうか。

特になければ、本日の議題は全て終了いたしました。

皆様、ご協力どうもありがとうございました。

以上を持ちまして、令和6年度第4回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了とさせていただきます。と思ひます。

どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。